

# サマーセミナー2023報告

秋月 秀一<sup>†</sup>, 多田 昌裕<sup>‡</sup>

†: 中京大学, ‡: 近畿大学

2023 年度のサマーセミナーは、4 年ぶりの対面方式での開催を復活させた。従来の合宿形式をそのまま踏襲するのではなく、学生・若手研究者による活発な議論がおこなわれるような工夫を取り入れた企画を実験的に取り入れた。若葉研究会の発表は 20 件、1 件の特別講演をお願いした。参加者数は企業 5 名、大学教員 9 名、学生 21 名の合計 35 名であった。

## 1. はじめに

第 32 回目となるサマーセミナーは、2023 年 8 月 28 (月), 29 日 (火) の 2 日間、対面方式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催は今回で 20 回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を与えること、両学会の研究室学生諸君、研究者同士の交流を図ることである。

## 2. 企画趣旨

### 2.1 企画委員の思い

サマーセミナーはオンライン開催が続いた過去 3 年間で、発表件数が減少傾向にあった。4 年ぶりの対面開催を実施するにあたり、コロナ禍以前の合宿形式の研究会をそのままの形で復活させるだけで、発表件数の増加が見込めるのかということについては不安があった。対面開催を復活させる今年度こそが、サマーセミナーの位置づけを再定義する絶好な機会と捉え、今の若手研究者が「発表したい!」「参加したい!」と思うような企画に刷新するということで、企画委員の意見が一致した。

### 2.2 今年度のテーマと企画内容

今回のサマーセミナーのテーマは「若手の議論が活性化する、新たな研究会を目指して」とした。発表者をご自身の研究に対して多くの質問・コメントを持ち帰ることができ、かつ、他人の発表に対して臆せず意見する「質問力」を鍛えられるような企画を盛り込むこととした。具体的には、2 点を新たに取り入れた。

1. 少数グループでの発表：少人数で研究発表を実施することで議論しやすい空気感を醸成する。さらに、各グループに司会役として専門の委員をつけ、議論の活性化を促進させる。
2. 議論すること自体を評価する仕組みを導入：議論することのインセンティブを与えるため

に、良いコメントを行なった場合、これを優秀発表賞の選賞に考慮することとした。具体的には、聴講者は事前に配布されたコメントシートに発表内容について感じたことを記入して発表者に手渡すこととし、発表者は参考になったコメントを行なった参加者に投票することにした。

### 2.3 運営体制

画像応用技術専門委員会が企画立案し、多田幹事を始めとするメディア工学研究会の委員の皆様を実施をサポートいただいた。構成は以下の通りである（敬称略）。

#### 【企画委員会】

##### 画像応用技術専門委員会側

- ・秋月 秀一（中京大学：企画委員長）
- ・金子 直史（東京電機大学：幹事）
- ・佐藤 惇哉（岐阜大学：幹事）
- ・菅野 純一（ヴィスコ・テクノロジーズ）
- ・森野 比佐夫（ファースト）
- ・飛谷 謙介（長崎県立大学：アドバイザー）
- ・興水 大和（中京大, YYC ソリューション：アドバイザー）

##### メディア工学研究会側

- ・多田 昌裕（近畿大学、幹事）
- ・青木 義満（慶應義塾大学）
- ・入部 百合絵（愛知県立大学）
- ・東海 彰吾（福井大学）
- ・村松 正吾（新潟大学）
- ・渡邊 修（拓殖大学）
- ・村上 和人（愛知県立大学：アドバイザー）

#### 【優秀発表賞審査委員会】

サマーセミナーでは、若葉研究会での優秀な発表者に表彰が贈られる。優秀発表賞については、以下の 5 名で構成される優秀発表賞 審査委員会を設置し、公正かつ平等な審査を行った。

#### 代表会委員

- ・秋月 秀一（中京大学：企画委員長）

- ・多田 昌裕（近畿大学，メディア工学研究会側幹事）

#### 審査委員（50音順）

- ・金子 直史（東京電機大学：幹事）
- ・興水 大和（中京大学，YYC ソリューション）
- ・村松 正吾（新潟大学）

### 3. 実施報告

#### 3.1 参加者数，会場

参加者数は企業5名，大学教員9名，学生21名の合計35名であった．全国各地からご参加頂いた関係各位に感謝申し上げる．会場は愛知県の愛知県の名古屋笠寺ホテルである．

#### 3.2 若葉研究会

若葉研究会にて20件の発表があった．オンライン開催となった過去3年間は13→16→11件と推移していたが，コロナ禍以前のサマーセミナー2019（発表件数20件）と同数に回復した．

今回は少人数でのポスター発表とした．1セッションあたり同時に4名が発表し，20分おきに聴講者が交代した．学生聴講者は“コメントシート”に発表への意見・感想を記載し，発表者に手渡した．発表が終わると聴講者からのコメントがまとまったコメントシート集が出来上がる．発表者には文字通り，多くのコメントを持ち帰っていただいた．

発表中は議論の盛り上げ役として全ての発表にベテラン研究者を司会役として割り当てた．司会役は，佐藤 惇哉氏（岐阜大学），金子 直史氏（東京電機大学），森野 比佐夫氏（ファースト），菅野 純一氏（ヴィスコ・テクノロジーズ），橋本 学氏（中京大学），多田 昌裕氏（近畿大学），入部 百合絵氏（愛知県立大学）村松 正吾氏（新潟大学），秋月 秀一氏（中京大学）にご担当いただいた．議論の活発化にご協力いただいた司会各位に感謝申し上げます．

#### 3.3 特別講演

今回のサマーセミナーでは画像認識関連分野で

ご活躍中の新進気鋭の研究者である，伊東聖矢 氏（情報通信研究機構）をお招きし，「画像を用いた環境のセマンティックモデリング」と題して興味深いご講演をいただいた．単眼デプス推定，マルチビューステレオ，セマンティックセグメンテーションなど，多岐にわたる研究プロジェクトについてご説明いただいた．さらに，学生に対して研究テーマの決め方や，同年代との交流の重要性など，研究活動への取り組み姿勢について金言を頂いた．

#### 3.4 最優秀発表賞

どの発表もレベルが高く，審査員を大いに悩ませた結果，以下の2名の受賞者が決まった．

##### 【優秀発表賞受賞者（発表順）】

谷口 史果氏（関西学院大学）

設楽 裕海氏（東北大学）

優秀発表賞のカップは持ち回りで，次回のサマーセミナーまで受賞者の研究室に飾られる．研究の励みになることを期待する．なお，コメントへの投票企画に対する一位は森山 凌氏（青山学院大学）であった．参加者からの拍手をもって，有益なコメントを頂いたことへの感謝の意を表した．

### 4. おわりに

今年度のサマーセミナーは，対面方式を復活させたことに伴い，実験的に実施形態を大きく見直しました．歴史のある研究会において，このような変更を快くお認めいただいた画像応用技術専門委員会委員長寺田賢治先生に感謝いたします．また，企画の内容については，事前に同委員会の青木義満先生，飛谷謙介先生，橋本学先生にご意見をいただきました．感謝いたします．

今回のサマーセミナーは，メディア工学研究会が中心となって開催します．今回の実施方法については事後アンケートを行いました．フィードバックにより，サマーセミナーがさらに発展することを期待いたします．



図1 発表風景と懇親会（BBQ）の様子